

4. 長野県で実習をした学生の感想

教科書や授業では学べない人との関わりを学べた。

患者さんから必要とされる薬剤師になりたいと思っていたが、その思いが強くなった。

患者さんから「ありがとう」と言っただけ嬉しかった。

わくわく実習は、実践的な内容が多く、楽しく充実した実習ができた。

多くの薬剤師の活躍の場を知ることができた。

わくわく実習を今後も続けてほしい!!!

長野県で実習して良かった!!

学会や薬剤師会でのSGDなど、他地区では出来ないような実習ができた。

おぼろげだった目標がはっきり見えてきたような気がする。

大学の周りの実習先では絶対に体験できないことができ、本当にうれしい!!

他の実習生と交流することで、気づきがあり、それを共有することでさらに視野が広がった。

平成 24 年度の実習生の感想から抜粋

- ・ 勉強会などの参加を通して、日々成長していくのがわかり、生涯学習の大切さがわかった。
- ・ 人との関わりを大切にしていきたい。
- ・ 患者さんに共感することがどのようなことか実習を通して体験し、実感を持って理解することができた。
- ・ 服薬指導を通して、患者さんに薬の説明をすることの難しさ、患者さんから「ありがとう」と言われた時の喜び、様々なことを五感で体験することができた。
- ・ 患者さんに頼られる「かかりつけ薬局」ではなく、「かかりつけ薬剤師」になりたい。
- ・ 服薬指導を通し、言葉遣いやわかりやすく伝えることの難しさを改めて感じた。
- ・ ちょっとした声かけや世間話などひとつひとつのコミュニケーションの積み重ねが信頼される薬剤師に繋がるのではないかと思う。
- ・ 患者さんひとりひとりの健康や幸せについて聞き出せるようなコミュニケーションが取れる薬剤師になりたい。
- ・ 患者さんの不安に寄り添って、何でも相談してもらえる薬剤師になりたい。
- ・ 初対面の人とのコミュニケーションをとる難しさを体感したが、早い段階から服薬指導を何度も行うことで徐々にスムーズに話せるようになっていくのを実感できた。
- ・ 忙しい業務の中でひとりの患者さんにかかる時間は短い、限られた時間の中で相談に乗るなど薬局は患者さんとの距離が近い場所であると感じた。
- ・ 調剤業務だけでなく年齢層や利用者のニーズに合わせた OTC や日用品を取りそろえ、町の身近な薬局として機能していることを知り、役割が多岐にわたっていることを実感できた。
- ・ 地域での薬の講演などの活動を通じて、住民が薬に対する期待や不安や疑問を知ることができ、自分も地域住民の QOL 向上の一翼を担える薬剤師を目指したいと思った。
- ・ 患者さんのために患者さんを頭に浮かべてさらに多くの知識を得たいという意識が変わった。
- ・ 薬剤師の仕事は、知識と経験が必要だと感じたので、一人前になるには日々勉強だと感じた。
- ・ 顧客や患者からの質問や相談に丁寧に答えるには、自信がないとできないことだと感じた。
- ・ 目標だった投薬の完結は、まだまだ乗り越える壁がいくつかあると感じた。
- ・ 生涯研鑽・・・患者さんを前にして役に立ちたいという気持ちがあれば、常に経験と知識を積み重ねていくことができる。
- ・ 思っていたほど在宅医療において、薬剤師は浸透していないし、薬剤師が関われることも知られていない。
- ・ 患者さんの背景を踏まえた上で、個々に合った対応をしていくことが大切であると感じた。
- ・ 服薬指導や患者アンケートから患者さんと同じ目線で会話することができ、気持ちを少しでも感じ取ることができるようになり、コミュニケーション能力の向上に繋がった。
- ・ 服薬指導を行う中で、患者情報を引き出し、事故を未然に防ぐことやいち早く体調の変化を見つけないという点からコミュニケーション能力の重要性を改めて感じた。
- ・ 知識やスキルとともに理念、情熱や使命感を持った人間として信頼される薬剤師になれる様今後努力していきたい。
- ・ 与えられたことを勉強するだけでなく自分から求めていく姿勢の大切さを感じた。